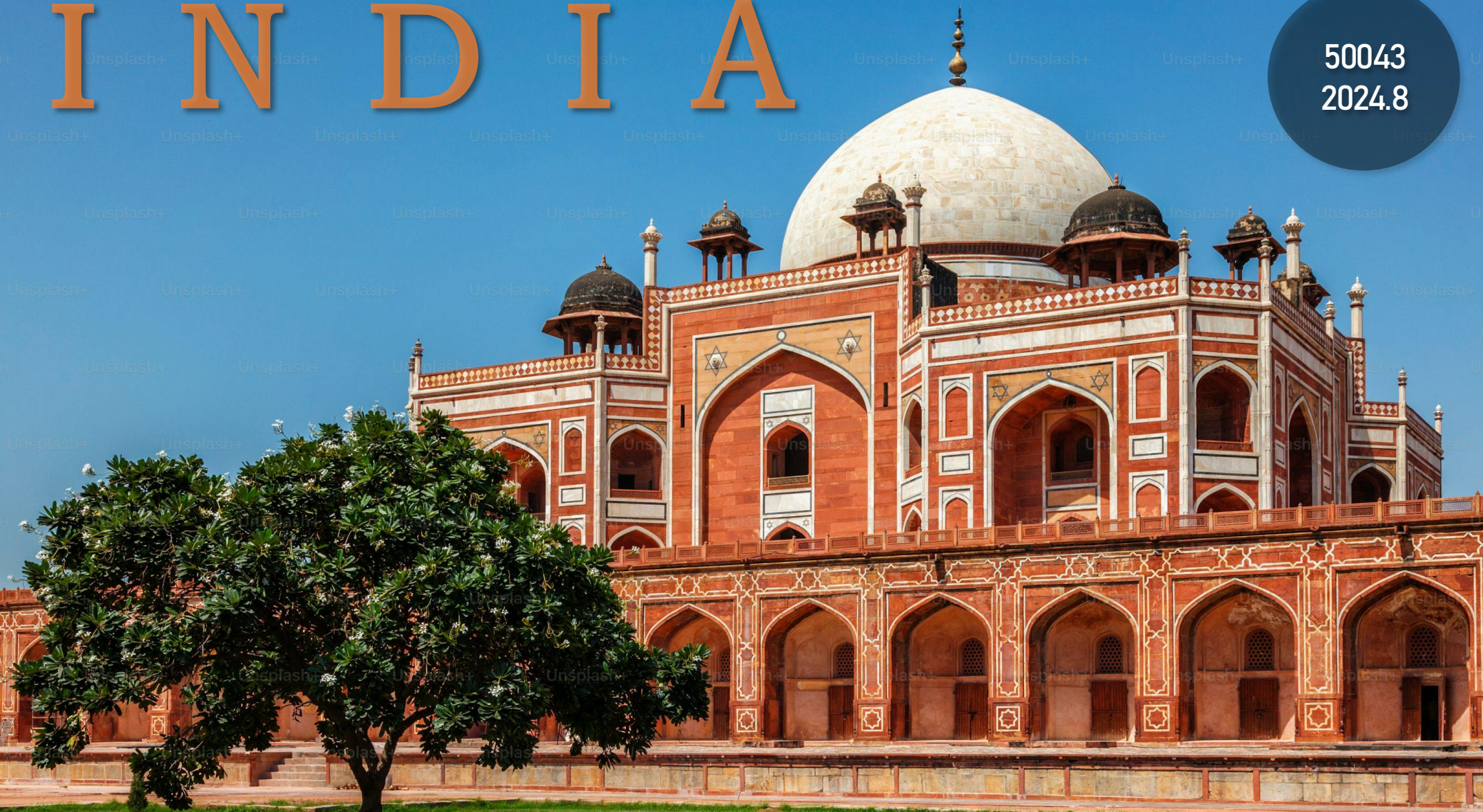


INDIA

50043
2024.8



フーマユーン廟

16世紀に興ったムガル帝国の第2代皇帝、フーマユーンの霊廟。
ドームやアーチ、精緻な透かし彫りなどイスラムの建築様式と、柱
やはりといったインドの建築様式が融合した初めてのムガル様式の
建築として、あのタージ・マハルに大きな影響を与えました。

住めば都??インドの生活事情

皆様はインドの生活にどんなイメージをお持ちでしょうか。当社のインド拠点長からは「住めば都!」という声もあります。インド進出を検討される方々にとっての安心材料になるよう、日本人に嬉しいお店事情をご紹介します。



【大吉】
ラーメンや和食が食べられる居酒屋です。



【ダイアパークホテル】
大浴場には、サウナもあり、朝食は美味しい和食を楽しめます。各種施設は宿泊者ではなくても利用できる為、赴任者の疲れも癒しています。一般利用の場合 INR700の入浴料が掛かります。
※INR1.0=JPY1.7(24年8月5日)



インドの概要

【人口】
2023年にインドの人口は14億2860万人を超え、中国を抜き世界1位になりました。インドの人口の約50%は25歳未満であり、この若年層の多さは今後の大きな労働力になると期待されています。

【経済】
インドは主要国の中でも高い実質GDP成長率を続け、国際通貨基金の見通しによれば、6%台の成長率を今後も維持すると見込まれています。中国の景気減速や米中対立の激化などに備え、インドを新たな生産拠点に検討をする企業は多く、他国のインドへの設備投資意欲は増えています。

【政治】
24年6月4日に行われた下院総選挙で、与党のインド人民党は第1党を維持したものの、初の単独過半数割れとなりました。経済成長の反面、物価の高止まりや失業率上昇、貧困拡大といった問題を抱えています。

主要都市を繋ぐ物流インフラ



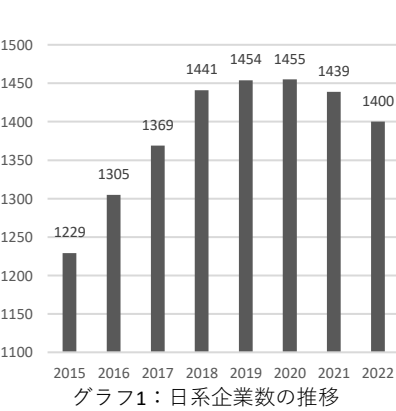
グルガオン
ここ10年ほどで開発が進み、多くの外資系企業が進出する経済発展都市。

ムンバイ
古くから港町として栄え、現在は国内外の大手金融機関が集積する金融拠点。流行のインド映画製作中心地。

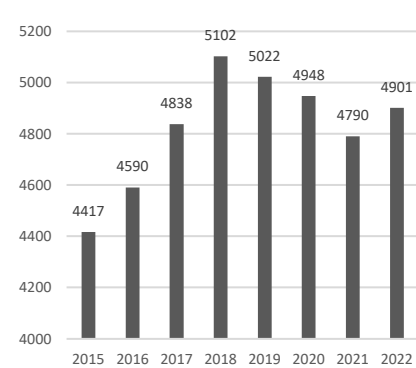


【物流インフラについて】
各都市は幹線道路で接続され、整備が進んでいます。図1の①～③は進行中の大規模開発です。
①ムンバイ・アーメダバード間高速鉄道
2015年日印首脳会談で新幹線システムの導入に関する協力覚書を締結。2027年の開業を目指す。
②ニューデリー・ムンバイ間産業大動脈
日本政府は日系企業から4,500億円の投資を約束し、貨物鉄道とスマートシティを開発。
③チェンナイ・バンガロール間産業回廊構想
バンガロールの工業団地整備とチェンナイを輸出入拠点とするべくインフラ整備が進む。

日系企業の進出動向



グラフ1のように、インドへ進出している日系企業数は2020年まで増加傾向でしたが、コロナ以降は減少に転じました。対して次ページの企業の拠点数では少し異なる傾向が出ています。



グラフ2：日系企業拠点数の推移

企業の拠点数に目を向けると、コロナ以前から減少を始めていた事が分かります。しかし現在は状況が変わり、企業数の減少に反して拠点数が増加しています。

これは既にインド

その他工業団地の情報(24年4月現在の価格等)は以下ジェトロリンクよりご確認頂けます。
https://www.jetro.go.jp/world/asia/in/industrial_park.html

一般のインド国内企業は法人税率が30%であるのに対し、25年3月31日までに設立された製造企業に対しては15%の特別法人税率が適用されます。

出所：日本貿易振興機構(ジェトロ)

特別経済区(SEZ)とは

特別経済区とは、経済活動を促進するために設置された区域です。企業に対して税制優遇や規制緩和などの特別な待遇を提供し、国内外からの投資を誘致することを目的としています。現在約400か所が認可を取得済みで、270か所程度が稼働中です。みなし外国地域とも呼ばれ、輸出・雇用振興を目的に、特定の条件下で下記例に代表される各種優遇措置が適用されます。

法人税：設立後5年間は免除、翌5年間は50%免除
 関税：原材料など輸入品に掛かる関税を免除
 消費税：国内からの調達に対し統合消費税が免除

(SEZの例)

Sec-21, Gurugram

テック企業にとっての理想的な環境が整備された大規模複合施設です。40,000人超のIT人材が1つの場所で働いています。SEZは製造業に対応する為、工業団地等が区域指定されている事もあります。

製造業以外で進出を検討されている場合にも、是非お問合せ下さい。



出所：CANDOR Tech Space HP

ニューデリー、グルガオンの賃貸住宅

デリー、グルガオンで弊社がご紹介する事が多い物件を一部ご紹介します。オフィスでデリーからグルガオンへ移転するケースが増えてきており、それに伴いグルガオンの紹介が増えています。日本スーパーや日本食レストランもグルガオンが多く、デリーでは減少しています。グルガオンでは従来から人気のGolf Course RoadやSohna Roadのコンドミニアムに空きが少なくなっている事で他エリアでも開発が進んでいます。

都市名：デリー
 エリア：Deffence Colony
 建築年：2017
 デベロッパー：Uppals
 主な間取り：2BED
 賃料目安：約INR180,000



都市名：グルガオン
 物件名：The Park Place
 エリア：Golf Course Road
 建築年：2011
 デベロッパー：DLF
 主な間取り：3BED, 4BED



賃料目安：家具付き：INR185,000～260,000
 サービス付き：INR195,000～270,000
 ※INR1.0=JPY1.7(24年8月5日)

当記事内容のご質問や、インド不動産については下記宛先迄お問合せ下さい！

【問合せ先】
 スターツコーポレーション株式会社
 国際事業本部
 東京都中央区日本橋3-4-10
 スターツ八重洲中央ビル7階
 TEL：03-6202-0148
 Email：kaigai@starts.co.jp
 HP：https://kaigai.starts.co.jp/



本号担当：三輪

工業団地について

工業団地とは、企業の工場や生産施設を集積させるために計画的に整備された地域のことで、インドに限らず様々な国に存在しています。

主な日系企業向け工業団地を以下に記載します。

①マネサール日本工業団地(ハリヤナ州)

特徴：自動車部品、電子機器、プラスチック製品などの製造が盛ん。デリー首都圏に近接している事もあり最もご紹介が多いです。

②ニムラナ日本工業団地(ラジャスタン州)

特徴：デリーから約120キロメートルの距離。約45社の日本企業が進出しており、自動車部品、機械、電気製品などの製造業が中心。